

所 在 地	二戸市福岡字在府小路	
21 次 調 査	調 査 原 因	個人住宅建築に伴う緊急発掘調査
	調 査 期 間	平成 25 年 10 月 8 日～11 月 3 日
	調 査 面 積	146 m ²
	主 な 時 代	中世、近世
	主 な 遺 物	陶磁器、金属器、銭貨、砥石、石製品、縄文土器
22 次 調 査	調 査 原 因	公共下水道工事に伴う緊急発掘調査
	調 査 期 間	平成 25 年 10 月 15 日～11 月 22 日
	調 査 面 積	約 230 m ²
	主 な 時 代	縄文（後期）、近世
	主 な 遺 物	縄文土器、石製品（石皿）、陶磁器、金属製品

①遺跡の説明

在府小路遺跡は史跡九戸城跡の南側に位置し、九戸城二ノ丸跡、松ノ丸跡の大手正面にそれぞれ堀を隔てて隣接しています。九戸城が落城し、福岡城となり南部家に公布された際に家臣を住ませたとされる武家屋敷跡と考えられています。過年度の調査において、道路跡に伴う側溝と道路に面した掘立柱建物跡や井戸跡が確認されています。

一方、猫淵川に面する東側に縄文時代後期の集落跡が確認されており、遺跡の東西で様相が異なっています。

②調査の内容**第 21 次調査**

既存住宅のため、大きく遺構が壊されている箇所もありましたが、幸いに中近世の遺構は良好に残っていました。

中近世の建物跡、または施設を確かめるため、表土、攪乱を受けた土を取り除き、中掘浮石（アワズナ）が混じる土まで掘り下げて調査を行いました。

第 22 次調査

在府小路遺跡の発掘調査は公共下水道本工事の掘削幅に合わせ、調査区は概ね 1m 幅で行いました。そのため、遺構の全体形はほとんど計り知ることはできませんでした。本調査区は遺跡東側の A 区、西側の B、C、D 区として行い、A 区では縄文時代後期の竪穴住居跡 2 棟が確認され、うち 1 棟からは石囲炉（河原石を円形に並べた炉）が見つかっています。B～D 区では縄文時代の遺構、遺物は確認されず、近世を主体とする溝跡 7 条、土坑 2 基、柱穴 28 個が確認されました。

③調査の結果

第 21 次調査

調査の結果、中近世と判断される柱穴 35 個、時代不明の土坑が 1 基、確認されました。

柱穴は現在の地割りに沿ってならび、柱穴の中には柱が立てられた痕跡が確認されました。掘立柱建物跡の痕跡と推定されますが、調査をした対象地外にも建物の範囲が広がるため、具体的な大きさは不明です。

また、陶磁器、金属器、銭貨、砥石、石製品などが出土しました。

第 22 次調査

東側 A 区では縄文時代後期の竪穴住居跡 2 棟が確認され、集落が猫淵川の段丘縁辺部^{だんきゅうえんぺんぶ}付近まで広がっていることが確認されました。

また、西側の B～D 区では柱穴配置から現在の道路とほぼ同軸の建物跡が想定でき、建物群の範囲を確認する

ことができました。また、以前の調査で道路跡とされた箇所^{箇所}の延長部分が調査され、側溝の延長部の可能性のある溝跡と、その溝跡を壊して作られた新しい溝が確認されました。

